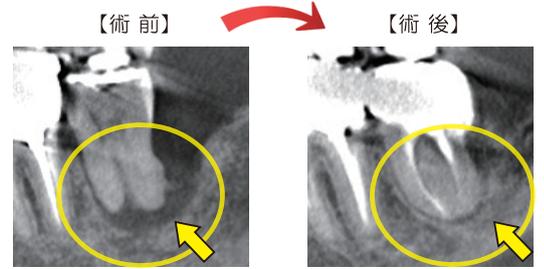


カムカム! ファミール

皆様、こんにちは！お陰様で、今回「カムカム!ファミール」第40号の発行により、第1号の発行から丸10年を迎えることができました。いつも読んでくださる皆様のお陰と、心より感謝申し上げます。

前号と前々号では、私の歯科医師人生を振り返り、「歯を残す」「人を遺す」「仕事を形に遺す」の3つを意識して仕事をしてきたことをお伝えしました。今回は最後の「歯を残す」について、お話いたします。

私は岡山大学を卒業してすぐに、岡山大学病院の「歯科保存学第二講座（現歯周科）」に就職しました。先輩に誘われて入局したこの講座は、主に「歯周病」と「根管治療（歯の根の治療）」を専門として、診療や研究を行う講座でした。この講座で8年間お世話になりましたが、「歯周病」と「根管治療」はまさに、「歯を残す」ために欠かせない大切な治療でした。歯科医師として最も大切な最初の時期に、この「歯を残す」治療を徹底的に教えてもらい、実践してきたお陰で、その後開業医となった私にとって、今でも「歯を残す」治療が診療の大切な土台となっています。



▲「再生療法」によって、失われた骨が戻ってきました。

歯を残すには色々な方法がありますが、最近では歯科医療においても「再生療法」ができるようになり、薬や骨に変わる材料を用いることにより、歯周病で失われた骨を再生できるようになってきました。（画像参考）また、根の先の炎症が大きく、通常なら抜歯しなければならない歯も、拡大鏡や歯科用顕微鏡を用いることで、確実な「根管治療」が可能になり、炎症を改善させて歯を残すことができるようになりました。更には、抜歯してもよい親知らずなどがあれば、その歯を抜いて、歯が欠損している部位に「移植」し、自分の歯として使うこともできます。インプラントと比較しても、自分の歯と全く同じように噛むことができるので、噛んだ時の感触もより自然です。これからも皆さんの「歯を残す」ことには、特にこだわっていきたくと思っています。

医療法人QOL ファミール歯科 院長 原 博章

診療カレンダー

★…勉強会の為、午後の受付は15時からです。

7月

休診日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	★12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	★22	23
24 31	25	26	27	28	29	30

8月

休診日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	★23	24	25	★26	27
28	29	30	31			

9月

休診日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	★13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	★30	

< 7月のスケジュール >

- 2日（土） 矯正相談日
院長 不在
- 9日（土） Dr.森澤 不在
- 21日（木） 休診 / PM矯正診療日
- 29日（金） AM 診療 / PM 休診
- 30日（土） 休診

< 8月のスケジュール >

- 6日（土） 矯正相談日
- 8～20日 院長 不在
- 11～15日 休診
- 18日（木） 休診 / PM 矯正診療日
- 20日（土） Dr.森澤 不在

< 9月のスケジュール >

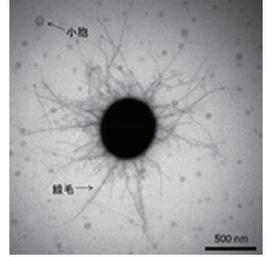
- 3日（土） 矯正相談日
Dr.山本 不在
- 7日（水） 院長 PM不在
- 15日（木） 休診 / PM 矯正診療日
- 24日（土） 休診



歯周病予防にはP.g菌対策！～ オルコア(口腔細菌検出装置)のご紹介～

ファミリー歯科で、お口の中の歯周病菌の検査が出来るようになりました！

歯周病の発症の原因となる細菌はさまざまな種類があります。中でも、**ポルフィロモナス・ジンジバリス** (*Porphyromonas gingivalis*、略して**P.g菌**)は歯周病菌のボス格で、**毒性が非常に強い**のが特徴です。炎症に伴うわずかな出血から、鉄分とタンパク質の栄養を得ることで歯周病原性を大幅に増強させ、毒素を出して炎症を引き起こし、歯周病を発症・悪化させます。その為、オルコア(口腔細菌検出装置)を用いて**P.g菌**のPCR検査を行い、感染状況(陽性、陰性)を数値化することで歯周病のリスク評価を行い、リスクを正確に知り、よりきめ細やかな歯周病治療・予防を行うことが可能となります。



▲ ジンジバリス菌の電子顕微鏡像 (日本細菌学会より)

◀ 細菌検査をする3大メリット ▶

① 将来の“歯周病リスク”に応じた予防ができる

今後起こりうる病気の発症や悪化を予測することが可能です。若年者の歯周病発症の将来リスクを判定できます。

② 病状の“タイプ”ごとにより、効果の高い治療法を選択できる

歯周病の「進行スピード」や「悪性度(治りにくさ)」を予め見極められることにより、病状のタイプに応じたオーダーメイド型の治療が可能です。

③ 治療の効果を判定できる

治療による改善、今後の見通しを判断する有効な手段となります。また、適切な通院間隔を設定する参考になり、歯周病の再発や悪化を効果的に予防できるようになります。



▲ 歯周病菌と全身疾患のかかわり (日本臨床歯周病学会より)

歯周病は全身の病気にも関わっています。(糖尿病、脳梗塞、虚血性心疾患、心筋梗塞、動脈硬化症、肥満、誤嚥性肺炎、早期低体重児出産、認知症、癌、関節リウマチ、骨粗鬆症) 特に**P.g菌**は、**アルツハイマー型認知症**との関連が指摘されています。

2019年1月に歯科界を揺るがす科学論文が発表されました。内容は、**アルツハイマー型認知症の原因は脳内に侵入したP.g菌**であり、**P.g菌**が分泌するタンパク分解酵素であるジンジパインが、脳の神経細胞を変性させて認知症を発症させる、というものでした。

このように、みなさんのお口の中にもいるかもしれない歯周病菌の**P.g菌**は、口腔機能を奪うだけではなく、私たちがかかりたくない大きな病気と関係があり、とても怖く恐ろしい厄介な細菌です。

このオルコア(口腔細菌検出装置)は、これからファミリー歯科で治療を受けようとしている患者さん、今現在歯周病治療中の患者さん、メンテナンス中の患者さん、全てのみなさまにおすすめしたい検査です。

歯周病治療によって、歯周病菌の量は減ります。特に、治療直後には大幅に減ります。しかし、半年以内にまた増え始めていきます。残念ながら、歯周病専門医・専門歯科衛生士でも完全には追い出せません。だからこそ、一度減った細菌の量をまた増やさない為に、患者さんご自身が行うセルフケアと、歯科衛生士による定期的なメンテナンスが必要なのです。

この対策により歯周病の発症・進行・再発防止に努めることは、やがて起こるかもしれない病気の予防や、全身の健康維持にも大きく貢献することでしょう。私たちと一緒に**P.g菌**対策をして、歯周病を予防しましょう！

参考文献：歯科衛生士のための21世紀のペリオドントロジーダイジェスト

Check!

オルコア検査方法

歯間ブラシで採取したブランクを使用し、PCR法により**P.g菌**の細菌検査を行います。痛みなく検査が受けられ、その後 **45分** で結果が出ます。

◀ 検査費用 ▶
3300円 (税込)

◀ 対象年齢 ▶
20歳～

やぶい なつみ

歯科助手の「藪井 菜摘」がファミリー歯科を卒業しました。

／ ありがとうございます！ ／

歯科助手と受付を経験し、とても勉強になりました。患者さんと会話をする機会もあり、楽しかったです。6月から初めての子育て頑張ります。8年間本当にありがとうございました。

